

平田塾

CKDの進行を抑え透析導入を防ぐために
薬剤師がやるべきことは何だ？

~triple therapy、

腸腎連関について語ろう~

I & H 株式会社学術研修部・平田の薬剤師塾 塾長

平田 純生

1977年 3 月 大阪薬科大学(現大阪医科薬科大学)
薬学部薬学科 卒業
1977年 4 月 白鷺病院(大阪市)に入職
1987年 4 月 白鷺病院薬剤科長
2001年 4 月 白鷺病院研究室次長
2004年 9 月 九州大学薬学府博士後期課程修了、博士号取得
2005年10月 オレゴン州立大学薬学部客員教授
2006年 4 月 熊本大学薬学部臨床薬理学分野教授
2020年 4 月 I&H株式会社(阪神調剤グループ)学術研修部
およびブログ「平田の薬剤師塾」塾長
現在に至る



参加費・事前登録不要

日時 | 2023年10月27日(金) 18:00-21:00

会場 | ウィンクあいち 2F 大ホール【800席】

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38



主催／第17回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会

<https://c-bind.jp/jsnp17>

高血圧や糖尿病が怖いんじゃない。怖いのはそれらに起因する合併症だ。血圧のコントロールできていない人が異常に多いこと、血糖コントロールがうまくできていない人が異常に多いことが、医療費の負担増になり、高額医療の透析患者数の増加の原因にもなるという悪循環を作っている。でも平田は信じている。この10年間に得られた新時代の薬物療法の知見、すなわち現在注目の SGLT2 阻害薬、ステロイド骨格を持たないミネラルコルチコイド受容体拮抗薬 (nsMRA)、現在は心不全および高血圧治療薬だが、従来のレニン - アンジオテンシン - アルドステロン系 (RAAS) 阻害薬から発展して、サブ解析で腎保護作用も期待されているアンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬 (ARNI) などを駆使する最新の薬物療法 (triple therapy) を適切に提供できれば、10年後、20年後の透析患者数を半減することができるはずだと。